

2021年10月



親切会

関東支部便り (No.16)

連絡先：〒101-0032

東京都千代田区岩本町 2-9-6

ゆいまーるひたち 4階

電話：070-3603-2172

メール：shinsetsukai-honbu@hdq.hitachi.co.jp

第16回 支部幹事会を開催

緊急事態宣言の最中で感染者数が拡大する中で、東京五輪・パラリンピックが無事終了しました。新型コロナウイルスのワクチン接種が進み感染者数もようやく減少、リバウンド期間を経て緊急事態宣言も解除されました。この間、1か月延長して様子を見ておりました第16回支部幹事会は10月20日(水)15時から日立製作所労働組合本部6階大会議室で開催されました。まず、鈴木支部長から「緊急事態宣言発令中のため、本幹事会も1か月延長してようやく開催できたが年末にかけての活動は引き続き慎重に対応したい」と挨拶がありました。

続いて議事に入り、2021年度の支部予算の見直しは日立グループから離脱する大口の法人会員の退会に加え社員食堂閉鎖などのため歳末募金活動の減少等もあり収入の見通しが極めて厳しい旨、報告がありました。これに対応するには当面「入るを計って出を制す」ことで支出面の削減策として、寄付先の見直しと寄付額の一部削減を実施しました。各施設には幹事が事情説明に訪問予定です。この傾向は今後も続くことが想定されます。

一方、収入確保の対策として個人会員の勧誘とともに法人会員の新規加入や口数増加依頼についても話し合いを行いました。会員の皆さんからの呼びかけも是非よろしくお願ひします。当会活動のPRのためのホームページの改訂では、経費削減の必要性から、掲載記事の更新だけでなく、新しい仕組み改訂に取り組んでおります。また、善行者表彰は年に1回程度の推薦を心がけて取り組んでおります。法人会員各社からの推薦もお待ちしております。

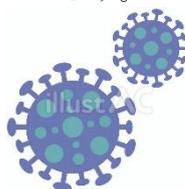
次の開催は、12月15日(水)を予定しています。

このコロナ禍は親切会にも！

このコロナ禍にあつて、東京オリンピック&パラリンピックが無事終了したことで皆さんほっとされたことでしょう。その中に合つて、ボランティアの方々の活躍は参加者だけでなく、世界から日本人の謙虚さ、サービス精神をほめたたえたことが報道されました。

一方、コロナ禍が個人、社会、世界に多大な影響を及ぼしているのは、会員の皆様自身が日々身にしみて感じられていると思います。

その中で親切会関東支部も同様です。いわゆる『奉仕活動』に加え『ボランティア活動』が社会の中で大きな比重を占めつつある時代、関東支部としてもその対応に努めてまいりましたが、その途上でのこのコロナ禍です。親切会関東支部の活動の在り方、内容に大きな変化が求められていると感じています。



先ずこのコロナ禍は、親切会関東支部の募金の在り方や寄付行為のあり方を直撃しました。

具体的には、例えば募金について言えば従来会社の食堂で行っていた募金活動が会社食堂の休止

等で出来なくなりました。結果その他の要因(法人会員様の統合合併などによる減少他)もありますが、募金金額は大きく減少してしまいました。

また寄付先への訪問は現場の状況の実体把握の為に必ず行っていました。寄付先の中には障害者の為の社会福祉法人などが多く、クラスター発生予防の観点からWebになったところもありました。親切会会員の皆様の『親切の心』をこのコロナ禍(withコロナ?)でどう伝え、『小さな親切』『ささやかな社会貢献』としてどう広げ、輪にするか、このコロナ禍は親切会関東支部にも大きな影響を与えています。(平澤 大 記)

コロナによる社員食堂の閉鎖等によりこれまでお願いしてきました年末募金などが大幅に減少しています。ぜひ会員のご紹介並びにご寄附にご協力をお願いします。



事務局(上記便りの発行元)にご連絡いただければ申込書(払込用紙)を送らせていただきます

個人会員	年会費	2,000円
法人会員	年会費	36,000円

— ご寄附のお願い —



個別ご寄附のほか、お仲間の懇親会の残金など事務局(上記便りの発行元)にご連絡いただければ、申込書(払込用紙)を送らせていただきます。

—前号 (No15) でご紹介しましたヘルプマークをつけた人、こんな場面でお手伝いができます。—

●公共機関で立っている人がいる

電車やバスなどの公共機関で立っている人を見かけたら席を譲りましょう。

長時間立っていると途中で意識を失ってしまったり、体調を崩してしまったりする方もおられるので、席を譲ってもらえるとありがたいと感じる方は少なくありません。

気軽に声をかけて席を譲ることで、ヘルプマークをつけた人が公共機関を利用しやすくなります。

●車椅子を自走している人を見かけたとき

自走式の車椅子（車輪が大きくて自分で動かすタイプの車椅子）の場合、長時間自分で車椅子を動かすことは体力や筋力が必要です。

車椅子に乗っている方から「手を貸してください」とは声をかけにくいものです。

街で自走式車椅子で動いている人を見かけたら、時間があるなら「何か手伝えることはありますか？」と一言声をかけましょう。

車椅子で移動している方の手助けといえば、「後ろ



にまわって車椅子を押し」というのが一般的なヘルプイメージではありますが、「ドアを開けてほしい」「歩道の段差を越えるのを手伝ってほしい」といった、ちょっとした手助けだけを求めていることもあります。

ます。

●階段の上り下りやバスの昇降時

利用者が少ない駅では、駅員がいない駅やまだバリアフリーになっていない所があります。

足が不自由な方や白い杖をついている視覚に障害がある方、重い荷物を持っている高齢者、心臓疾患を抱えている方などは階段の上り下りが苦痛です。ヘルプマークをつけていたら、必要な援助は何かを尋ねて支援をしましょう。

急いでいる場合は、駅員がいるなら手助けが必要な人の情報を伝えることができます。

●災害が起きたとき

災害が起きたときは、いち早くスマホなどで各世帯に自治体から連絡が入ります。

しかし、聴覚・視覚に障害がある方や身体が不自由な方、内部障害がある方などは迅速に避難所まで移動することが困難です。

災害時にヘルプマークを差し出されたら、できる限りの範囲で避難の手助けをしましょう。

また、近所の人に声かけして皆で助け合うこともできます。

手助けするときの注意点

「ヘルプマークをつけている方を気軽に援助したい」と声かけしても断られてがっかりすることや、「声かけしたいけれど恥ずかしくてかけられない」ということがあります。

ヘルプマークをつけている方を援助するときは次の点に気をつけましょう。

●ヘルプマークをつけている子供の場合

自閉的障害や発達障害やパニック障害、知的障害などの子供には、何かあったときに助けてほしいと親がヘルプマークを持たせてあげているようです。

ヘルプマークの裏を見ると援助してほしい事柄を書いてあるかもしれないので、それを見て子供に必要な援助を行いましょう。

●手助けしたいけれど声をかけにくい人は「サポートハートマーク」をつける

ヘルプマークをつけている人の手助けをしたいけれど、自分からは声をかけにくいと感じている人は、「サポートハートマーク」をつけておくと手助けしてほしい人から声をかけてもらえます。

ただ、あまり普及していないため、「サポートハートマーク」のことを知らない人もいます。

●声をかけて断られたとしても気を悪くしない

ヘルプマークをつけている人でも、できることは自分でしようと思っています。

階段ではゆっくりひとりで昇降したほうが安全な場合があるので、必要がない援助なら断られるかもしれません。

勇気を出して声をかけたのに断られた場合、「もう声をかけたくない」と感じるかもしれませんが、くじけずに助けが必要そうな人を見かけたら声をかけて手助けをしましょう。

ヘルプマークをつけている人を見かけたら手を貸しましょう



ヘルプマークは助けてほしいという意思表示です。見た目には元気そうに見えても、あなたの援助を必要としています。

ぜひ、ヘルプマークをつけている人を見かけたら、手助けできることを伝えましょう。

